



日本百將傳一夕話

五

~ 13  
3566  
5



門 13  
號 3566  
卷 5



將傳一夕話卷之五

東都  
目錄

○ 源 義 光

○ 藤 原 清 衡

○ 平 正 盛

○ 源 為 義

○ 平 清 盛

幸



松亭金水謹撰

百將傳一夕話卷之五

○目

詳長堂藏板

早稻田大學圖書館  
昭 34.6.3 受  
藏 書

源義朝

源為朝

源義平

以上八將目錄終

目錄

金水齋



義光 新羅三郎

義業 進上判官

佐竹 山本 柏木

錦織 大島 早水

加賀見 奈古

田村 曾根

この外氏族多し

盛義 平賀冠者

義宣 平賀四郎

其子朝政從四位

下武藏守

源義光

人皇七十五代 崇徳帝太治二年八月卒  
今嘉永六年 七百二十七年成

源義光者號新羅三郎赴奥州

属兄義家擊武衡家衡有軍功

善知騎射禮式其子孫世傳之

伊勢小笠原の両家弓馬及び武家の礼式を制し伊勢の平氏あり。小笠原系ハ新羅源氏の末流。この故小義光以来相傳の式と基くことと制せし武家の恒例とあり。今小笠原猶こまを傳ふ。

源義光の伝

父頼義三子とては三神の附屬一男八幡太郎義家二男加茂次守義綱  
 三男すまひち新羅三郎義光あり。然るに二男義綱不幸に志を虚名を被るに  
 竟る朝敵となつて。近江甲賀山一旗滅び其身は依波一流罪せらる一男義  
 家も亦孫廣く。就中義重下野足利の別業小居り。後年新田足利の西  
 將興る三男義光の逸見以下の勇士世に出武田信竹俱みその威名を揮ひ今  
 由南都以下の氏族繁栄せり以てあるる朝臣弓馬の元より家の盛なり。故  
 實と探り温奥と究め万世武家の恒式とあり。その他特許管法と稱し嘗て  
 毎小信然るるごりいり。才器その右不出るものあり。あつた義光は兵衛尉とあり  
 林守中宿衛は兄義家奥に下向し。不愆小乱火来て武衛家衛と白刃  
 と頼朝のより波及び逃るその力を援人と。その昔款新小及びけとと放てれ許

容ありりいり力あり在るが式と信と思案あり。任之勅勅と崇りとも兄弟  
 既小戰場小出生死存亡斗を難さ小安下りてあるべきあり。とまうり容小僅  
 ちりの多勢と引俱りて系所成出る。義光元より望と好みて豊原時元小學以  
 一時信能の登とらうて時元既小信傳とせり。然る小先年時元梓世その子時  
 秋いまさ幼穉小秘曲と信傳も小必らら。と義光小の信傳とら。然る小今回  
 容や小系所と出て陸奥へ赴くよと風小吹山海ありと隔るのころ。我傷ら  
 條之再會の期も是未あり。何卒志てかの秘曲と信傳とをやと必ひるとその服と  
 得ざりり。時秋の志とある俱小約とら出て義光小従ひ。義光渠と諭と  
 りや。多年の因之忘さざら俱小東へ下向のといと味多ありあり。是の長閑  
 三祐小あり。珠小在下么家の小許容と受さざら。後雅と斗をが。然るに和  
 殿法共小下やの罪被らん。その志の志とら。初りぬ頼朝の帰やより。と屢とと



百子集

三〇

羊



百子集

君

樂工時秋新羅

三郎

足柄

秘曲

授

授

辭一多と時秋ハ可入ハ。免角を相模不員柄まであり。義光日毎渠う入  
 の心苦まゝふふのけ。倍と思惟し心小曉で。その夜時秋と喚進づけ。和殿途より飯  
 治のこ屢いど可入あり。既小たまで未まる所以と是聲と曉里得たり。ふ小和殿が父  
 時元より。吾皆倍と愛さば。大食調入調の二曲と倍らんとのるる。一と未と傳え音  
 さんと。指二三枚とま処不敷せ。まう是小坐し。いへと初めると。時秋ハ心中大不秋  
 び。義光の對し小坐し。知るまやく在下ハ幼穉より父と失ひ。その家跡とハ嗣りの  
 う。家小倍なる秘曲と知らば。君のこ父が皆倍あるまば。この兩曲と倍をやく。倍も思  
 ひありし。処不懐由。隆興へ下るる。遠懐さ小是まで。屬副未あり。こ心中畏まは  
 いひけま。義光則胡録より。坐の譜一卷と把出。是を彼秘曲の替る。是疾倍  
 え言えんとて。坐と出。とと倍ふ。時秋頻小感謝と。肩をう。秘と恩の為  
 ふ。左右と去らば。彼地へあり。大馬の旁と獨さんと。強小清けきと。義光一向

義光も吾の親族と援けん。修羅關鋒の巷小赴く。死生存亡量るべし。人  
 共と和殿吾不後し。若俱小彼地小死さ。野家の秘曲由共小賦と。帝小世小  
 益るたの。祖先への不孝と。とより連小在治へ飯。吾凱陳と俟小如は。理  
 と。一諭名ふら。時秋やうく心決し。活活救行小及び。小彼と領らり。り  
 大の夕諸書小載て。美法とま。聊。その優美と愛の餘り。  
 小載て不抄小彼ふ。このは。法書異同あり。参考して合せ。解せの。かくて義光法  
 奥へ。玉で同胞對面と。相款。奥羽所。小於軍功あり。東海東。北陸の士。その  
 勇。名と慕ひ。孫と守と。甲信。將常の。小。その血統の。誓。成。せる。その民族と。守。せん。  
 然。ま。どの。竊。小。想。ふ。る。朝。長。の。る。ま。の。非。道。と。企。て。の。姪。ある。義。忠。と。殺。し。め。ど。法。書  
 の。外。と。按。ず。る。小。其。身。の。奥。羽。の。軍。功。あり。刑。部。丞。ある。り。ま。と。義。忠。の。痛。流。ふ。て。河。内。小。住  
 せ。ま。人。の。崇。敬。由。吾。の。倍。人。華。や。う。小。承。え。め。て。換。ら。か。く。の。針。ら。ひ。め。と。あり。加



一勞之恩 恩遇之渥 ुरるを然とどり馬子心中 是と獄にけせぬ人とその  
 便宜と候ふも直約のいかとどり志は自その功不誇せり 馬子と女見河上娘  
 と密通して 憚りて馬子と志を凡吹て 僥倖のと出来たり 心は款比他とて  
 その実否と精よく探り 一時直約と引捕へ 庭の樹木に縛りて 世自らせりて  
 ち多射ひ射ると志と殺しり 直約が身不許へ 天誅速し廻り 未ん初め如く  
 の次身不及べど 馬子の太子と若とりて 聊の障りもあらず 栄華も誇りも不測  
 ろるむや 然いと入鹿の世及び脱れ 誅し不依し 皇と 這いその橋も長く不  
 奪ふの萌ふより 中大兄 謙足と謀りて 誅し不依し 皇と 宗俊と弑せし罪ありあ  
 るを 相想ふも 當り威権法く 帝寝殿に刺し 命を奪ふ 本人と隠れり 何れと  
 知る人あり 世の耳目と敵ひり 入ん 実あり 一世の欺くとも 豈あ世と誣べんや 相  
 するといふも 説の

武則 出羽仙北家將  
 前九年の初小依  
 補守府將軍に  
 軍あり

武貞 貞川太郎  
 武忠 班目四郎  
 武道 月次三郎  
 清衡 實直權大夫  
 子之母 貞信の妹  
 母の胸に在りて  
 武則の過とて  
 家衡 將軍三郎  
 家衡 同四郎

藤原清衡

今皇七十三代 堀河帝 寛治五年 奥州  
 平定 尹今嘉永五年 追七百十三年 成

藤原清衡者 武衡家 衡拒命之時

屬義家有軍功 成功之後 義家付

清衡以陸奥之事 其子基衡 其子

秀衡 其子 泰衡

清衡武則真人 一説に 武貞の 小養ひたり 武則の清原氏あり 然るとその妻及び清  
 喜小原原とまるとり 其ののの 実又直権大夫 権清とふたり せとて 養ふ人  
 今世の例と等しと云



藤原清衡の結

清衡が傳記と按る前文といへる如く真人武則が養和の事といふもの。その実父を直  
 後大文経流し其母の頼時の女にして貞任が妹と然る前九年合戦の事貞  
 任滅び経流擒とありし小將軍に懐深くしつら純刀をりて経流を斬りし時清大  
 小若くして死して遺下かの妻懐胎する事真人武則が傷み其母の妻とありし  
 一の命よりて武則かの女と推しえ胎肉の子と産して是と清衡と号す。ま  
 ちの腹に武衡家衡の二人と産み故に異父兄弟と云ふ事武則が將軍の命と  
 叛く事及び清衡殊に歎く事一日武衡が彼未だ將軍の武威宇宙に響か  
 仁徳園中へ普く志を草木の靡うぬ方とるに然る足下一人一旅小難を  
 野公と抱き將軍を叛く事かの後柳が斧をりて降車小對ふの命へ答へ  
 竟る尸と野徑に曝し流石と千載の下に流さん速ふ心と改め頼小解く事

ぞある。吾們將軍に歎けし。足下が是までの罪責を言へ宿めんといひけし武  
 衡の言もあはれ。吾益の事宣ひて一團と敵小引請兄弟左右小別とんとい元  
 素の覚悟ふて今更何とぞ後を思はん將軍小對し一点をりし敵對意強め  
 といふもの。經正助兼新謂る死小城小終やと吾小敵對おとを武士とりの戰場  
 出一旦鋒と交るる。雌雄と決せやいある事。能令千日千夜の間説あへど  
 志を精まことあつてとと兼引とんをさるる事。清衡大に歎息あり然るに  
 再び何とぞ言ん吾同胞小ありある事。今より後の怨故あり。そやの後の戰場  
 参入るべし。といひ放つて降りたり。是より武衡とあむの吾小ふ力の人小あはれ本  
 國へ歸るふおととあひ定めて出羽へ退き。そは後家衡由出羽へ来り。武衡と援けれ  
 ば快とそ愛羽の動礼とたうて。竟る武衡家衡滅びぬ。是と後三年の戦といふ。その  
 本傳の前太平記及び武家評林小も漏れとて。記しつるべしとあはれ省けり。



九ヶ瀬

清原武衡が  
反心を  
清衡来り  
大小棟む  
聴む



斯て武衛等滅びて後將軍上流の人物。真々武則由失り且つ清衡とては陸  
 奥の事と委ねあひたり。是より清衡奥六郎の押領使とるのて威を揮ひ子孫  
 相續て秀衡不及び其の泰衡父が遺命を復らざる用て頼朝の爲に滅されて死  
 へ絶つ

因ふり清衡の才武衛が鋭く心と執して將軍に隨從せしむる  
 練めしとて武衛一向可ざるを以て。竟る兄弟怨故とるしと既前文より  
 休がや。尙も清衡言と放つて武衛が鋭く去りて武衛一人嘆くや。世の  
 不忠義もあるもの。吾一旦右秀武の權をさし清衡と俱ふ真衡  
 と攻伐んとの結構ありし。その縁計合給せむはひも。正當が防禦の  
 周て陣を遂げかくる將軍の及みより。其の秀武和睦しぬまは。吾們は枝  
 葉の深く拒むの理にあらねど一旦戦ひを報ゆる。天地と遠さんと欲あつて

然るも清衡の才と異あり。又其人武則が養ひてまゝなり。實に直権太夫  
 經法がふるまふこと己の如き。人のまゝなり。然るも經法將軍を欺き官軍小か  
 更小衣川引揚への懐を深くと擒とるの。後純刀りてその首を斬りて  
 其六頼義の俱小天と戴さるの。頼朝のころ。祖父頼朝及ひその伯父の。貞任と作め  
 一家を志す頼義討せぬと。怨を深き源家の。這回義家の。下向と。僥倖  
 こそ成討て孝養不備ふべし。勿論めて勇士の。女を娶りて。その志をたのころ。  
 徹小依ひて。と稱し。割へて。補て。同胞と。依んと。と。云甲斐も。ある。道。志。成  
 と。大。小。言。り。さ。り。と。の。人。如。何。小。の。武。衛。が。痛。む。る。如。そ。の。理。柄。然。る。賢。人。忍。み。是。成  
 評。さ。の。の。是。非。の。り。小。あ。る。ん。九。五。と。以。て。推。量。る。小。武。衛。が。玄。孫。の。人。に。是  
 ら。は。清。衡。が。痛。不。放。つ。其。理。若。り。と。の。あり。や。不。然。止。と。由。渠。朕。肉。不。在。て。  
 武則が許ふ。武則の將軍。小功あり。故に。後守府の任。小薦ゆ。真衡。小至。て

高貴と稟因て清衡及び武衡家衛三家別して武則が遠領を副心家  
 栄ふと思ひ悔ふが軍靴の賜あり故ふと思ふ感下怨を忘れて軍  
 家朝は仕るが若如此の清衡の己あること知つて父能あること知る  
 多る一然ととも武則は將軍云二の忠所ありその正統去衡ハ私ハ將軍方  
 多るてりて是を援けて之祖の儼と忘るが道ありやいも其是非を辨は但  
 一性昔てりて考るが多る萬章の篇にいそ舜流共工于幽州放驩  
 兜于崇山殺三苗于三危殛鯀于羽山四罪而天下咸服誅不仁也  
 云としえそ鯀ハ禹の父あり然ととも不仁多るふよりて誅を受く然るが禹ハ  
 多る一舜と怨むは不忠とそ一後小舜の讓を受て天下を保るは是後物ガ  
 多る一多と彷彿するが父て不仁の罪あるが誅せらるるといふこと多るふよりて必怨  
 と忘るは是も不忠と可るふ人ハ后の識者の分解を俟のと

貞盛 上平太  
 鎮守府將軍

維將 肥前守  
 北條の祖

維衡 上野介

正度 常陸介

維盛 右兵衛尉

正衡 右衛門尉

正盛 因幡守  
 淡路守

從四位下

忠盛 備前守

清盛の父

平正盛

人皇七代堀河帝嘉承三年義親追討  
 今嘉永六丑迄 七百四十七年成

平正盛者平族之後也奉命擊

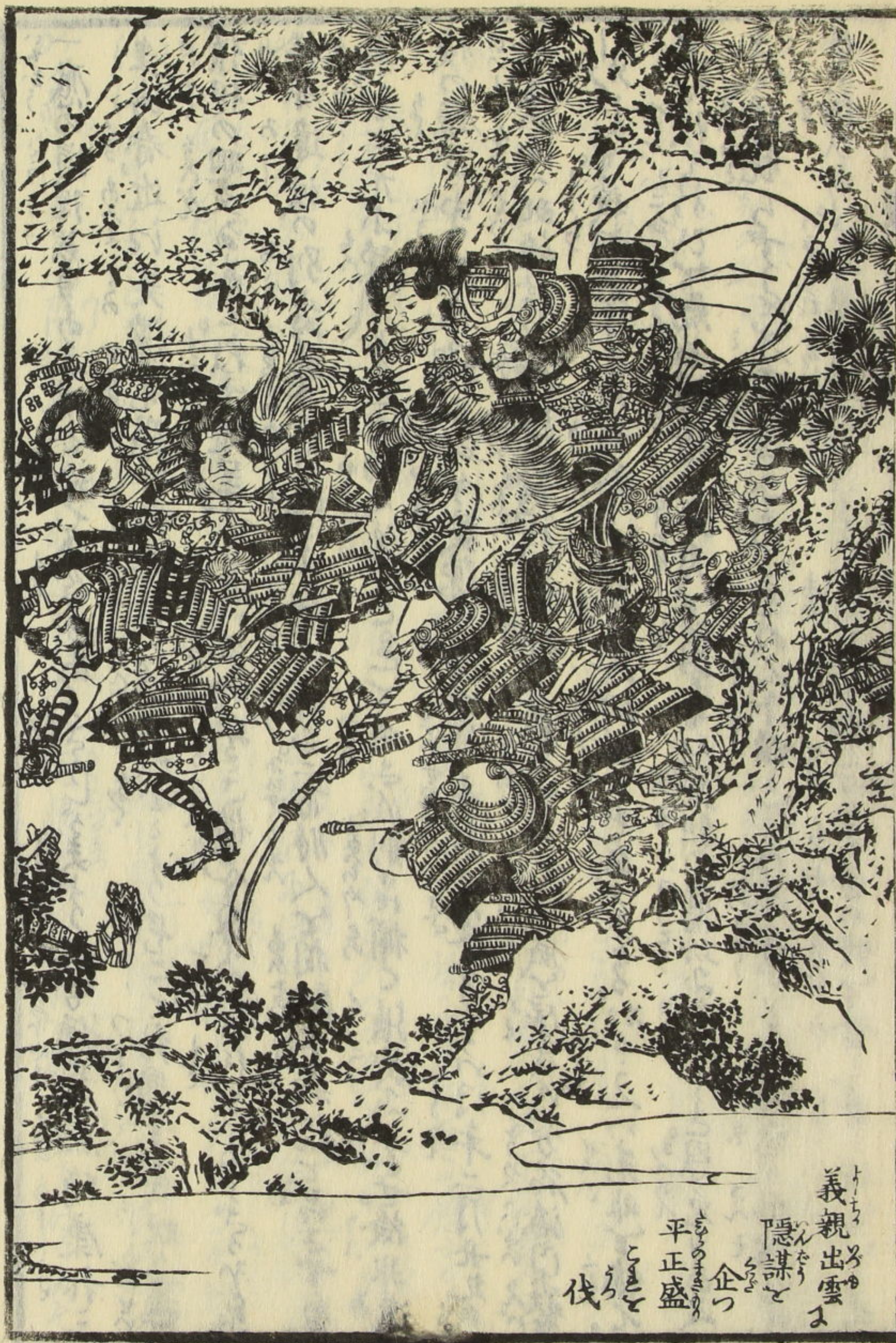
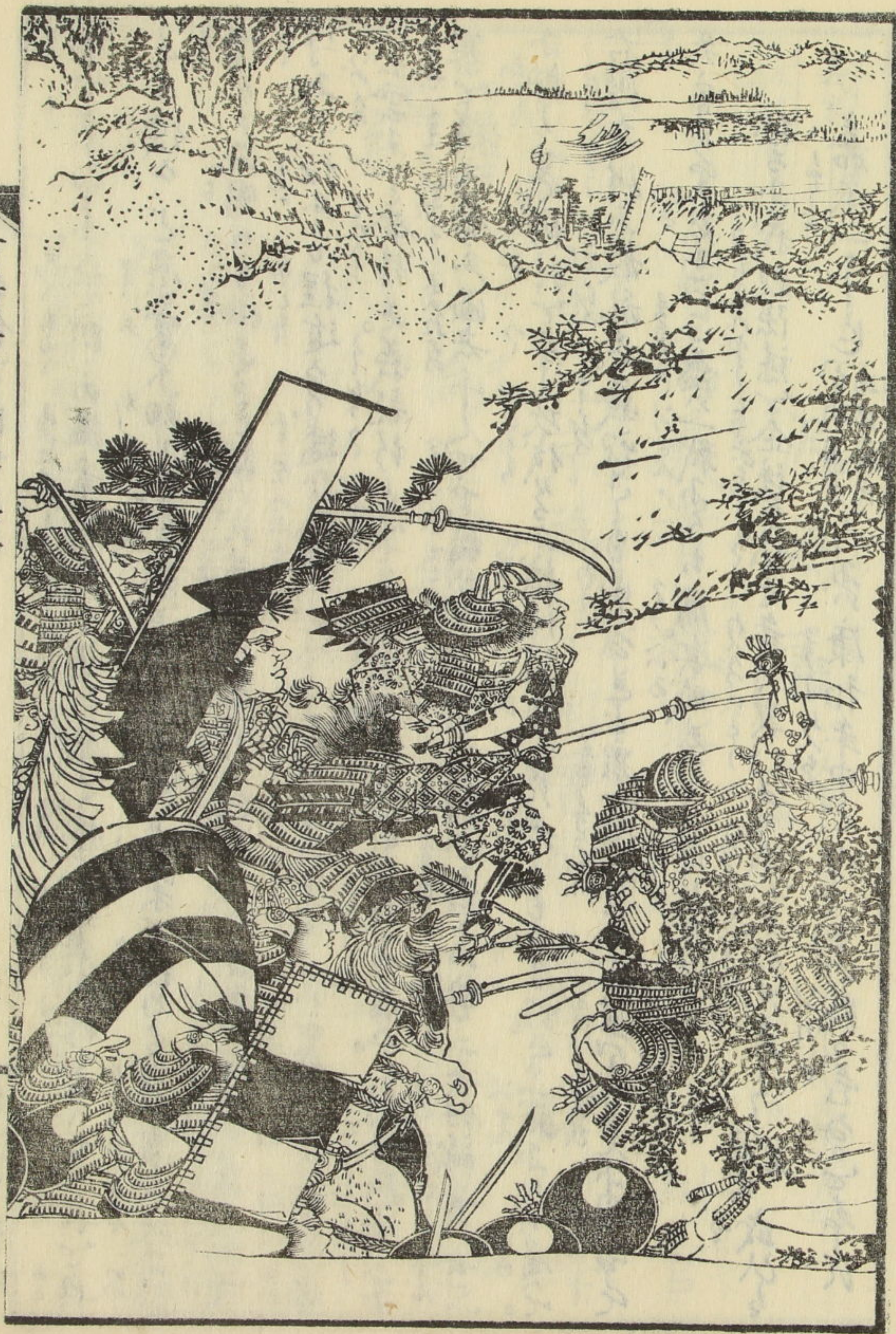
源義親時康和年中也

家系上小記すがぬ。祖是とて按する平氏北條の各家あり清盛の庶  
 流よりあること清盛ふつて官相國仕ト天下の外祖として威勢宇宙  
 小冠より故ふ人以て平氏の嫡家といふ出時北條の任臣小潛て僅か其統  
 と存するの謙倉三代の後ふふて天下の權柄を掌握はるること多る  
 將軍あり倍長として執権の

平正盛の伝

平家嫡家の爲りて馬不達一威名高し。前陸奥も義家朝臣の爲りて義親の志父不似。根原介下と虐げ上と凌ぐ。ひあまの義家屋敷に加へらるること更不用か。周て四男義忠不家跡と譲らる。さ不究まり。さ不於て親のしとこの家の爲りてしと家跡と譲らる。何の面目あて天下不立んと。まより便宜の兵と集め才義忠と滅さん。その結構頻々殊ふその拓さ不慮するの。こみ在る溢りの成ひの野伏強盗と縛とる。若るまの企せゆと秋比洛中洛外不操行して對馬もが家入あり。と権柄不任せ我意不募。後へ資材と奪ひ根原言治不終ぬ。六檢非違使より如此とのより。對馬もが義親一沙汰あり。とと義親在下貧く。後者寡し。且根原さるりのあ。は尙以後か。悪流あ。バ。日捕て鞠問あ。全く覺悟仕ら。及と言せ放て陳トける。みぞ

一應の道理ある。と強て山谷あり。さより。美濃尾張と作め。初て坂東のふより。是こと對馬守義親が軍勢。檢非違使の別當系仲清。ま。橋宗補ふ。二百侍人と相副て義親と召させら。義親右九不陳ト。とと。二人若てととと。許さ。は。則。捕。張。不。不。檢。非。違。使。の。廳。へ。申。さ。し。ける。か。ま。今。更。陳。ト。難。て。罪。奏。既。不。定。まり。し。う。六。月。年。二。月。廿。九。日。出雲のふ。配流せら。押原式。叔代。の。右。帥。賢。明。り。て。武。威。と。隊。さ。は。方。名。海。内。不。警。かり。し。も。義。親。あ。ま。の。無。勅。り。て。家。名。の。罪。服。と。ぞ。あり。ふ。なる。か。る。入。は。先。非。と。悔。ん。才。と。惜。し。む。は。と。勅。め。殊。務。不。年。月。と。送。せ。ら。る。父。社。の。清。功。不。免。せ。し。と。恩。免。も。あ。る。さ。と。猶。曉。ら。ず。と。才。の。若。さ。ふ。あ。ま。ぬ。人。不。恨。と。う。け。畢。竟。こ。ま。の。義。忠。が。魂。許。さ。る。は。不。難。ひ。る。生。て。渠。が。穴。で。食。い。ん。ん。の。飽。足。ら。し。と。心。不。十。分。の。懐。と。合。し。と。使。宜。と。り。て



義親出雲  
 隱謀と  
 企つ  
 平正盛  
 伐

勢と集むる在、斯の溢者再多く従ひ属く、依て軍用の務へるて、兵と與  
 と不便ると豪富小押入、全根を奪ひ、或ひは米粟を掠め、暴虐日夜小  
 増ら、且つ國内も心まき、然らば其む、系所へ注進、はる放て、正盛の  
 守り、任ふ、口程迫る、速小追、候と、命の下り、正盛不日、小軍兵  
 へ出雲、まへと奉り、義親、初と、空より、要害小據、を、悪う、る、と、同、小  
 寨と據え、屬ふ、溢者十人、可、捕、獲、候、と、候、正盛、その、勢、二十、倍、誘、二、三  
 小押、よ、せ、計、を、攻、候、る、小、城、佐、甲、斐、る、死、者、も、有、ま、は、一、戦、小、ち、負、て  
 右、佐、た、能、不、散、乱、を、義、親、と、も、勇、あ、ま、と、眾、寡、故、ま、る、と、能、い、と、是、小、自、害、に  
 失、り、り、を、然、ま、は、正、盛、一、戦、小、ち、勝、兵、威、を、く、揮、ひ、り、り  
 按、る、小、義、親、隈、妹、と、企、謀、不、伏、と、年、月、異、り、あり、或、は、天、仁、元、年、と、一、國、史、或、ひ、と  
 嘉、承、二、年、と、一、本、朝、帝、主、の、あ、る、康、和、年、中、と、あり、い、ま、と、孰、く、是、る、と、を、い、

### 源為義

人皇七十七代後白河帝保元元年七月卒  
今嘉承六年追 六百八十九年成

源為義者義家子也號六條判官

常在京為禁衛曾會南都羣僧蜂

起為義纔率十餘騎討却之

保元之變不得志而死

ら小義家子也とあり、恐らくは、撰寫する、一、本、小、義、家、者、と、つ、て、り、と、為、と  
 又、又、り、手、裏、の、上、の、人、の、系、圖、の、如、く、武、家、系、傳、に、據、ま、り、義、家、源、  
 く、愛、一、父、義、親、流、罪、の、後、義、忠、の、子、と、せ、り、次、の、文、小、の、り、に、

百代傳一多言者之王

義家 陸奥守

義親 對馬守

為義 陸奥四郎

義忠 河内守

為義 六條判官

實義親男

義朝 左馬頭

以下畧之







為義経を  
 甲賀山へ  
 義経の三子  
 死す  
 潔く

世よ安小居の宮長と害以以外の無道あり早く謀成をなさう。院宜と賜ひるは為  
 大ふ款以勇と天仁二年八月廿日。の忍へて進突に相送る一旅あり森冠者義隆兵庫  
 允義行院藏人頭清井上太郎時光時田太郎光平。河内冠者師行宗院の郎黨  
 首後助道武者所実伝鎌倉権大史景正後後坂戸と推してその勢約合三の五  
 百餘騎旗旗整とてうち向ふ當小の任人佐と本原大史傳方子息季定と相  
 具して一千餘騎ふに池加いさる軍兵大勇とて甲賀山と向ひたり。義綱の勢  
 と安より鳥餅が早しは小冠者軍兵餘の者とも算ふふ是れは乞へて安人  
 べ。と子息義弘義俊義光に托その外宗院の兵小指揮をて送る本重と小打  
 せ。要害小周てと直と固む。在る所の隘者等。の容と安及び池の屋竟の險阻  
 みて寄手勝とあるさる。然るに六味方へ池加り。分捕をて得るんと欲心極盛れ  
 僻者等。とて曲くと聚まるる。其勢六千餘人となる。かまひやく畏るふ是ら

彼と候構えたるの処へ為義の軍勢周と揚て破れんと勢ひ甚る。此方いと彼ら  
 せ。と痛子義弘大抱とて。命と惜まは防に戦入。流小三日三夜ふおよひ合戦更  
 小陣のなけはかの加たり。隘者等。の兵の外あるも痛さふ。得るはあふ  
 志と可惜命を喪んと。ま技と不潔なり。残るは金珠の郎後とと僅に  
 二子除人あり。さるるも是れ命一。後凌千の月のるまは味方の落れおれと屋  
 せ。林牙成をて防さるる。敵の同小除る大軍ふて二の城戸さへ彼らとぬまは  
 今のもやとせまてあり。と院判官代義弘の才義に托ふらと防がせ。又小自害と勅  
 めをぬ。と中陳へ池由とて。量必ひと。又義綱の家隷ある。後内家致小利の  
 とて。せ利髪をて在らんと。義弘呆れとこれ。つるは所存ふけり。流小愛家の運  
 命。今と限ると及そ。頼り自害あまさう。在下俱仕らんといと潔く云け  
 ほど。手綱へ更ふ。初せ。為のあふ。私のみと。小院宜とを。清く。

さきと朝敵の汚名遁せむは是もまさか残るるまじ。この安きなり降来り今我  
 非をある企のまさぬや。陳は後小左右の世を心と心と決しなり。とて義弘  
 いやく呆まの網小藤んを初言はし。いやくは許の心を敢る。誰人當の事小  
 加至。首を然らと心と曝し。未世の汚名を遠えより。疾くは自害し。先在下  
 先と仕すゆいんと。前ある松の太木小すりくと昇る。太刀を抜ては小衝  
 真倒小敷千丈の溪底へ墜て死せり。是を見ては義綱の自害して在る事  
 義範の見小換。防ぎしレガ力竭き。在陳の容のりみぞと狭入て是を  
 呆きて向か答へ。傍の家致が云ありといふをばさる見と各一とをまこ  
 由益あり。いざ在下の先せ仕るべし。かの樹小昇り。見義弘と月下なる小溪へ墜  
 くと死せり。かまじの程綱の何う心小逆する。自害せんとせしめり。官  
 三郎義俊来り。その宿をよて討す。在下擲小在て務骨と獨り。力の限を防

ども。敵を也山上小元満て。今御代も有り。疾くは自害あり。義俊は首  
 と揚いでて故小通ふごさう。計らるべし。と再三いど答へり。りるる故ぞと家致  
 小左の家致如此と在り。と先言はるる初ていふとも詮あるらん。いで在下由  
 兩個の見小統ては先仕らんと。物の鼻脱を雪より向き。膚お其げ腹脹より  
 刀を引りて引廻り。太刀父が小周こまては自害し。といひ其処へ俯  
 ころ。今眼お小三人の子息が死せしと憂へむら。頼て互あごり付せよといと  
 呆きて人も辱ぬ。義綱一人阿容と。義が陳へ降す。全く心と存せぬ。討ら  
 朝敵の名と取。は生前の透帳を元来義忠と謀り。言えいさうく。かき此は然  
 はく執達と憑と系ら。と述べ。降人の法とを弟。短て後雨怪の穿襲へ早業。勝  
 岡の三夜あけ。即ち小と引揚。義陳して右のう。逸と奏。同志し。小義の  
 弱冠もて。小初礼と謀む。と氣健あり。と威あり。正六位下小叙。左近将監。お

あることなる供養綱が罪責のいまだ分明あることと判發して降人となる。是と雖も  
 不使あることと死罪一等と宥めまは流さるなり。嗚呼我細名おのふふて  
 其才元末武勇あり。奥忍小ての兄義家と頗る勇威と揮ひまはる。年元より  
 とのひひあつた言甲斐あり景勢と人まは訓り笑ふ小初も。僅十四歳小まは  
 為義が遠回の働子先祖も。立勝まはる挙初やと感せぬ老もあつたり。まはる  
 五十年を経て永久元年とある是より尙延暦寺山と奥福寺南と神瑞のこと  
 ありて勅裁と作くの外南初非なるより。肩とありて力あり。寒くして降まはる  
 けり。惡僧們とことと彼を侵るる。今一度系呼へおませらる。背懐と晴さんりのと  
 月名と永久元年十月下旬物の具爽小打拵て南初の大衆二千餘人降紀りぬ  
 とやえし。公卿會談ありて緯急あり。誰と討つる。あつて宿衛の武士とたれ  
 ける。為義とまはる。然るに取らぬ。地に向ひことと張む下と命せらる。為義と小願兼は

かばり火急の詔命あること。私宅へ降まらる。然るに今日に仮初の参内ありて後者の  
 僅十六人の外あり。殊小物の具まはる。いと便あり。有る。雜人們と乞らして  
 速小教へん。まはる。いと為義のあま馬小踏踏る。主従とも十七騎採小採と地させ  
 以東山清閑寺の意小ありて憩ひ。暫くことと俟所小下初等追と小武器の類を隠  
 立て持まぬまはる。各身を固め。優然とて。ち對ふ。時南初の大衆們は。二兵三  
 小入浴まはる。と評議とまはる。所小陳と居て酒と飲。兵糧とほひ居る。而栗栖山の  
 木陰より自旗祖とまはる。あけて。為義と進。出法師等。非分の敷訴とて。悉小神木  
 と捧げ。小入浴まはると。言浴小絶。る。復舊あり。周て。前陸圍。為義が。為  
 義と。此所小向。む。若非と悔て。帰ら。其。侍。遶つて。入浴と。あ。ハ。逸。頭と。切。並。ん。  
 と。大。為。小。停。ま。り。あ。い。大。衆。苦。勞。て。の。使。例。の。生。公。家。と。名。ひ。の。外。源。氏。の。嫡。流  
 為。義。刀。秘。と。い。え。より。皆。む。所。あり。南。部。の。双。族。の。切。味。と。い。え。入。参。小。入。へ。さ。そ。と。岡。本。坊



五只并朝と憑むべし... 義朝一人七倍... 俊成... 堅者... 史より義朝の方へ... 叔田... 比む... 房と嫌... 七條西...

Table with 2 columns: Name (e.g., 正盛, 忠盛, 重盛) and Position (e.g., 因幡守, 備前守, 太政入道).

平清盛

人皇八十一代 安徳帝 養和元年閏二月卒 今嘉永六丑逆 六百七十三年成

平清盛者保元平治之亂與源氏

相戰遂殺為義義朝等而後威

振闔國官登上台族里威

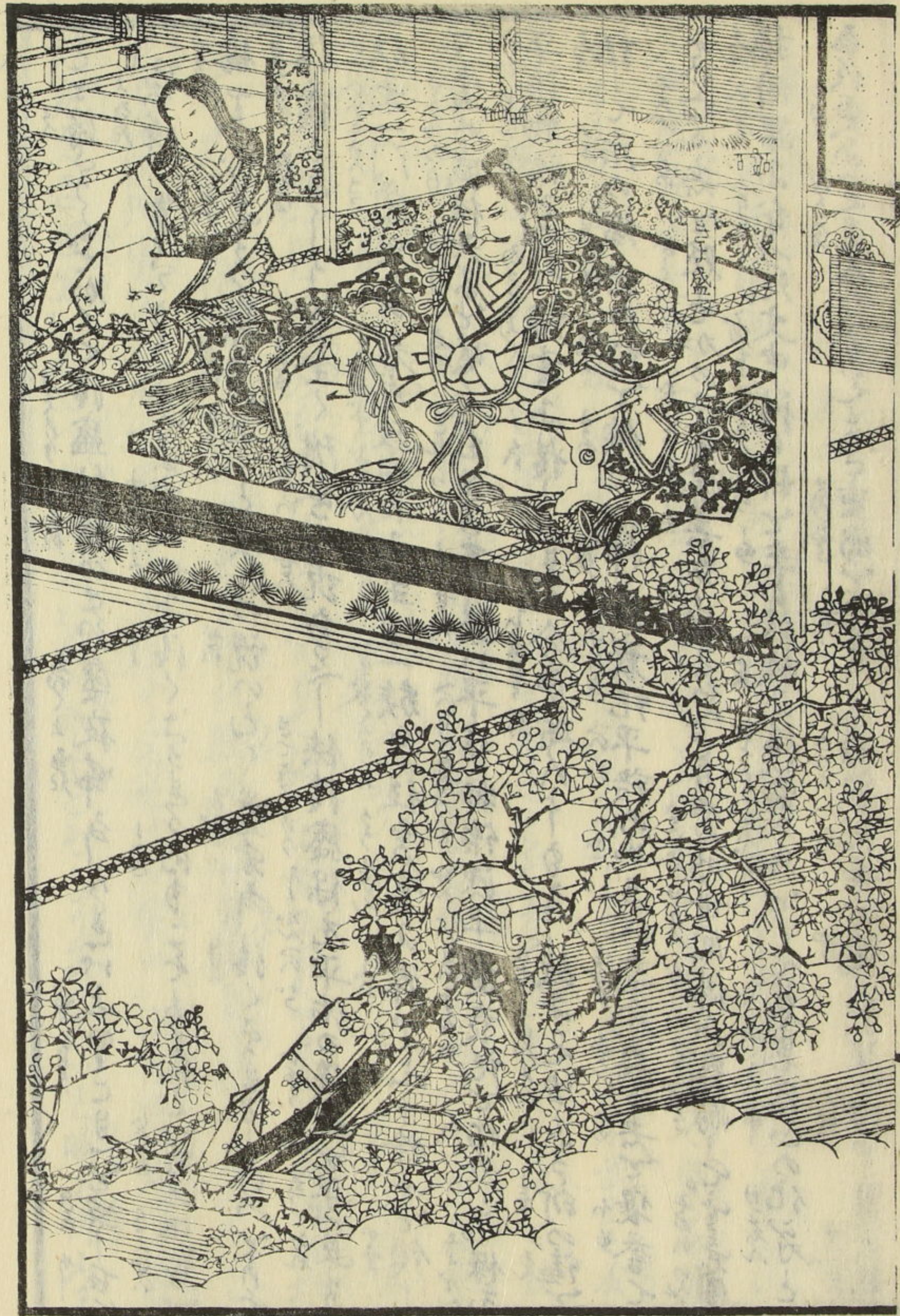
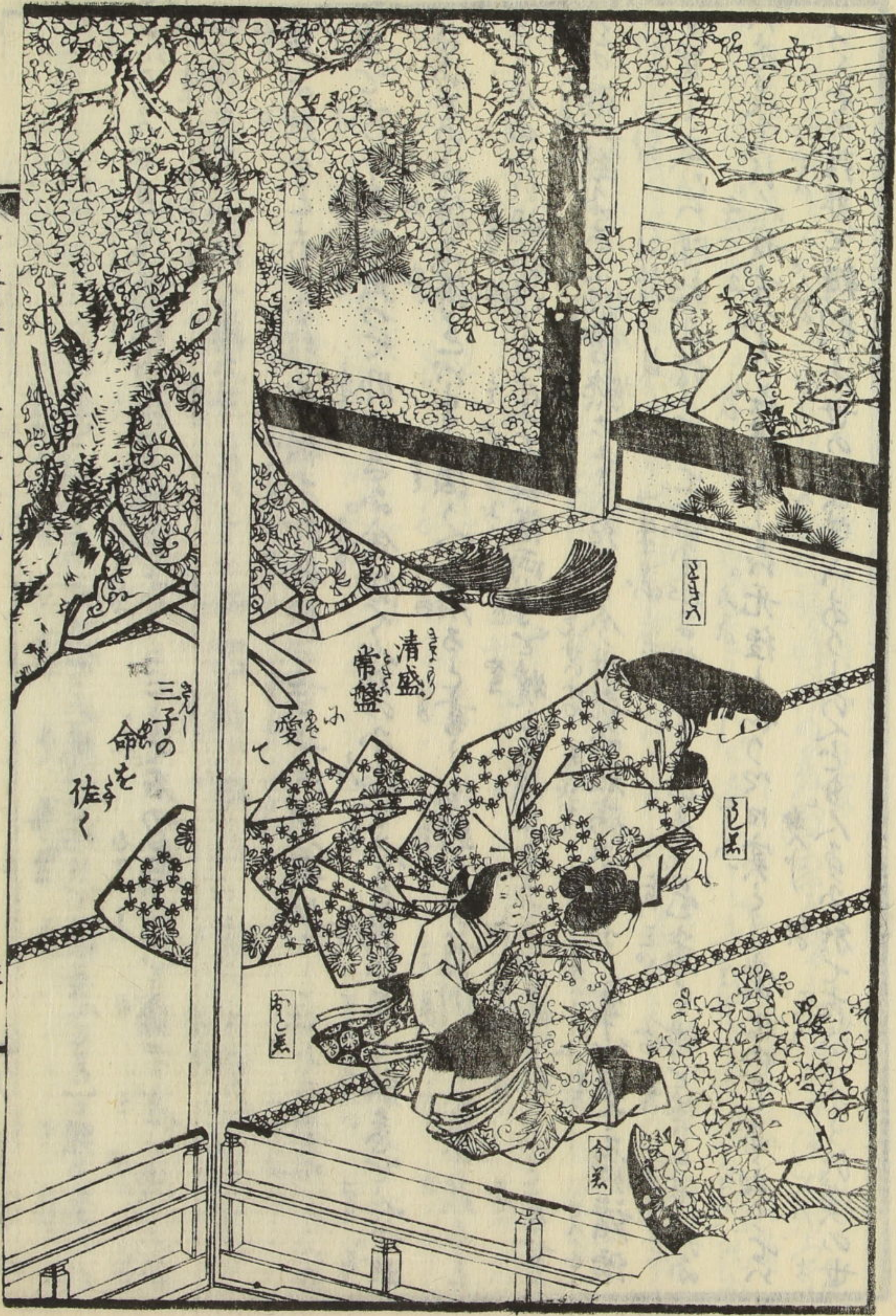
貴驕富人皆側目

清盛武臣より出て官太政大臣に至り... 備ふ古今未嘗有の盛學あること其実ハ 白河帝の藩亂ありし...

平清盛の結

清盛入道淨海と 白川帝の落胤ありより前より之を是と奈何と索るに  
 又忠盛長承元年二十三年間堂造營の時とて監する功小周へ假守小  
 補せしる妻家元来 桓武帝の遠孫ありとて以とも貞盛以宋武士と成  
 て世相実小妻せしは内小至や始て家と起まるとぞ嘗て忠盛窮て得て親  
 多く仕ふる小向河帝の御妃祇園女御とのみあり屢ら小通ひ小忠盛毎  
 供奉えり。或と死祇園の神前小異形のあり。衆る小怖まを近つ小忠盛  
 入性て捕ふ是油注の法師たり。とてりて倍 上皇小窮せしは彼女御懐妊  
 のより忠盛小揚ふ若産む新女子あり。朕小返せ男子あり。下と  
 然る小女御男子と産む。因て忠盛さるる世と由。實に 上皇の胤胤あり。其  
 後然るべき便宜とてりて 誅が呪い小斗をこそるあり。』と暗小祈ふる

とて得る。かくて清盛幼穉の之に屢夜啼あり。上皇は是と笑て  
 夜啼よきとてりてよ末の世小清くさうとるあり。とて一首の比製と  
 揚る。かまより夜啼の止。とてりて鏡いとく。若末を清くさうとるあり。とてりて  
 清盛と号しよ。全く附舍の説あり。一依清盛保元平治の擾乱と平げまは  
 以来一門栄えあり。大政大臣小至。一族言位官小昇。二十餘を領  
 小當時威權天子と凌ぐ。是等の事。漢の平家物語源平盛衰記と始めり。保元  
 平治物語の外緒書小後。はるる今更述んよ。故小見。さるる祈の端と  
 記して后の穢者の評と俟の。抑盛衰紀平祐の如き。小安小自ら老と褒譽て  
 その亡る者と貶まかの二書佛ある。辰とより。當時世間佛小惑弱。とて。其間  
 縁因果小なづ。梵文中性。佛と主と。故小清盛入道とて。義惠信の化。と  
 あり。更小定んる。記の。と。重衡と。作。く。南約の二寺と。焼。む。と。限。る。免。大罪





とる。及重衡が。一挙と記さる。文と舞と悪と揚とと極めてことと毀る美とれ  
 然らんや。且清盜病の羅を。煩熱ま。とて。石の盤水と盗と。身と侵して熱  
 と冷ま。その水初て湯沸ま。ま。冷水と汲て換ふ。と遠い文勢とて。人のこ  
 実小然るこある非也。彼大和物語小業平河内通ひの死。その妻岡あつひの  
 旁で吟。困ふ。つて。外こ。金。破る。ひの。小水と入。胸小居。て。瞋。毒と。冷。す。然  
 は。ふ。その。水。湯。沸。ま。ま。る。汲。う。て。居。る。と。書。し。も。則。こ。こ。内。例。み。て。實。小。然。る。こ  
 ある。あ。つ。ひ。煩。熱。小。憎。と。東。大。真。後。兩。寺。と。燒。る。罪。小。う。て。火。の。病。と。好。ら。ふ。と。書。せ。り  
 公の病。然。小。あ。つ。ひ。掃。熱。の。ま。死。の。今。世。既。小。熱。病。小。羅。を。人。事。と。言。え。又。清。盜  
 と。罵。り。或。ひ。煩。熱。小。憎。と。て。容。小。水。と。投。ま。る。の。あり。是。悉。く。佛。と。焚。る。佛。罰。小  
 がある。あ。つ。ひ。人。我。古。より。云。傳。え。と。い。無。後。と。あり。以。口。實。と。當。め。の。こ。小。あ。つ。ひ。の  
 よ。く。その。理。非。と。辨。別。を。世。の。變。革。の。あり。と。の。人。も。人。多。小。於。て。古。今。あ。つ。ひ。漢。の。世

仲景痛傷と云。今千載の後及び最倭漢の義あり。猶その法を用ふ。  
 某方悉く換ある。及び。人事の變ること。死と儻と。そ。後。重。衡。擒。小。熱。既。小  
 鎌倉小史。是。一。処。南。約。の。血。僧。怨。と。抱。と。強。く。重。衡。と。清。小。う。南。約。小。通。を  
 こと。と。誅。と。その。是。非。い。ま。と。辨。へ。る。と。私。と。吾。輩。試。小。論。を。と。べ。と。彼。衆。徒。等。小  
 制。せ。と。て。初。憲。の。死。が。ぬ。く。う。ん。後。世。と。ま。と。傳。え。せ。と。小。巧。惜。と。の。極。と。あり。後  
 流。と。い。う。小。語。と。も。元。より。初。故。と。あり。上。の。誅。と。ま。と。是。と。誅。と。流。と。ま。と。是  
 と。流。と。と。武。の。権。と。ま。と。と。國。史。界。及。び。傷。家。の。書。小。山。法。師。寺。法。師。の。罪。行。と。論  
 と。い。う。と。毎。々。渠。等。が。制。と。受。て。初。憲。の。振。り。る。嘆。嘆。の。詞。多。く。入。え。り。と。て。如。何。る  
 と。い。う。平。家。の。人。と。初。の。ぬ。く。小。段。を。め。ら。り。と。と。の。緣。故。と。按。ぶ。る。小。清。盜。一。時。の。權。小。任。せ  
 て。已。小。端。ら。ん。と。と。已。と。辨。る。の。の。と。罪。を。と。若。惡。邪。正。の。間。と。同。と。同。と。同。と。人。等。小。數。の  
 と。あり。加。濟。武。臣。より。出。て。疆。を。ま。る。た。大。住。小。居。と。世。以。て。眼。と。側。小。み。ま。と。自。ら。換。と。換

平氏大納言時忠ハ 帝母 建春 院の兄にて専ら政を執りし。平氏白と称  
 する。なる言貴の身あり。毎人小謂いし。衆庶依れ計ふべし。  
 然とも平氏の族あり。考へん人小非ぞ。かき衆人と視る。又  
 更ふ土芥の如く。或ひ先三百人治中。治外不横り。平氏と排る者罪せ。  
 小放てその亡るは。探てとせが非を奉る。但一嚴植先。白公の初権。汝汝不  
 法皇とま。千右の大罪あり。この生心。其奪ふ。君臣の名。  
 とわびと。いども之と要む。白河帝の庶子あり。朝憲の系。乱さる。他家不  
 非ぞ。しり。且かの之の暴り。橋子の舟と。罵るが如し。夫南の北。嶺万。岸の悪  
 僧暴虐。皇命小背。かぬ。改と。靈と。民と。害り。帝。妖魔の。と。あ。び。の。人。  
 この云。実小確。備ある。

六條判官

義朝 左馬頭

義平 悪源太

朝長 中宮太進

頼朝 右大将

義門 左大将

希義 富田冠者

範頼 蒲冠者

全成 童名 全若

義圓 童名 七若

義経 九郎判官

伊藤 小任

按ふ朝長の来  
 女あり。母ハ  
 平治の乱。平  
 朝の命。平治  
 朝の命。平治  
 朝の命。平治

### 源義朝

人皇七十八代 二條帝永曆元年正月卒 今嘉永六年追 六百九十四年成

源義朝者鎌倉右大将之父也保

元之乱有戦功因領東海道諸州

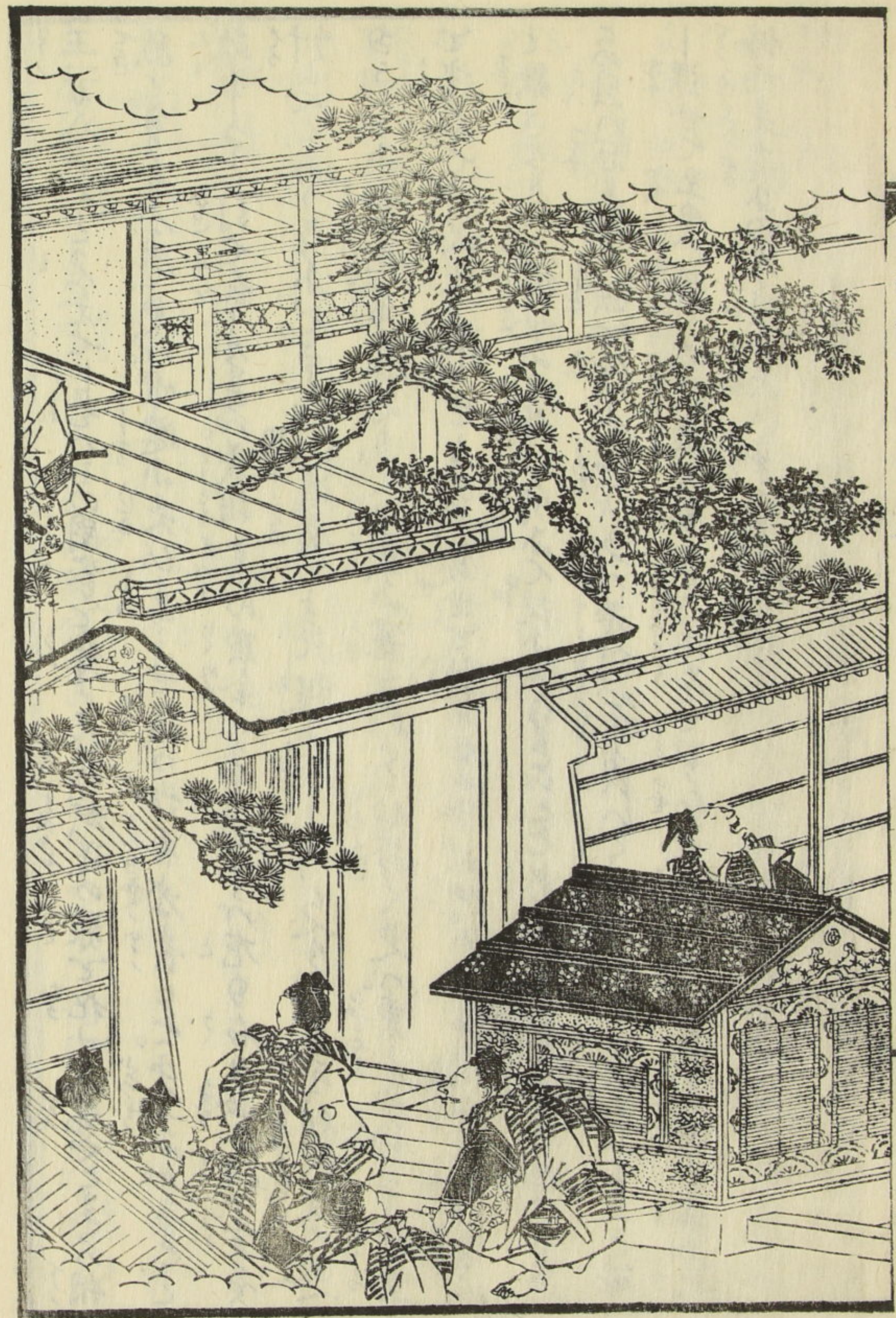
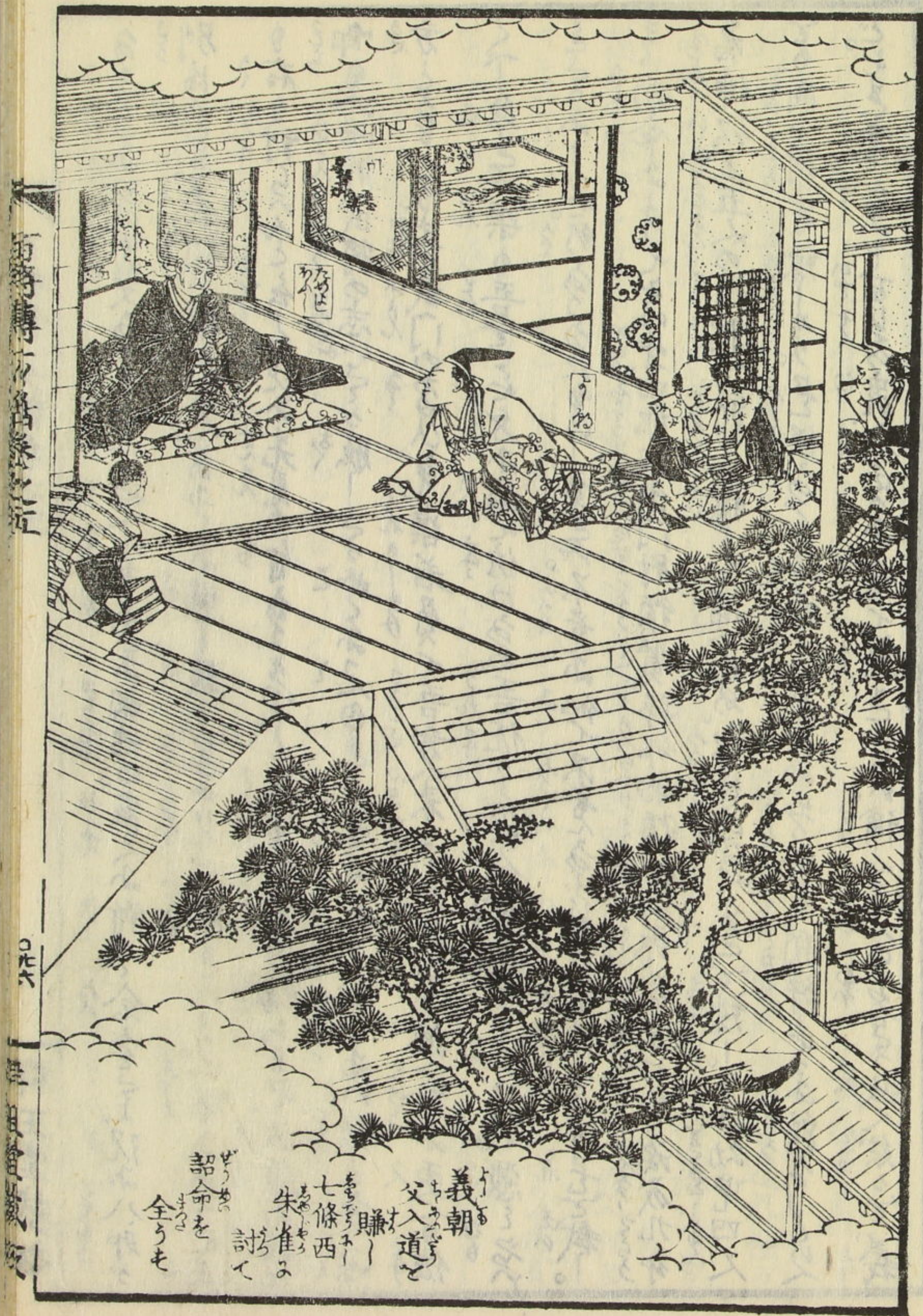
士卒

義朝源家嫡流の弟にして勇略に双衆を超す。但父為義と稱せし。後  
 輩その順逆と論ずると屢めて損初頼家實朝三代の死を克せざる。其  
 除却ありし。人宜る哉。退と考ふる。小義朝親族と殺す。と。ま。止。と。得。る。  
 が。如。し。父。為。義。と。稱。せ。し。を。以。て。救。ふ。下。警。畏。人。と。殺。す。舞。天  
 の。位。と。弁。父。と。角。入。悪。ま。る。人。と。孟。朝。の。位。と。名。ひ。合。ま。る。朝。の。位。と。名。ひ。合。ま。る。

源義朝の事

義朝保元の乱に白河殿におよせ火攻とて一挙に勝ち頼朝を泰平と致しこと智  
 勇兼備武略の勝る所実の経基以来の名家武名と墜するの功績と謂  
 つべし然るに父が或る時負人逃亡しその命を請ふに及ぶ別して法  
 律を素早く義朝が故に求む義朝父が根柢と勅へやよく冊を合  
 おし更にお命を乞はせしむと朝廷更にお許容あり既にお清盛との叔父と  
 平馬助忠正を始め婦子新院院人長盛二男皇后宮侍長忠綱三男尤存  
 句當に綱四男平九郎通正等と六條河原にお斬らるる義朝の遺子に准り  
 が首を参らるべし然るに餘人として斬らるるに義朝今も力  
 めく縁由と指して譚ずるお政清勅云といふ不冷新故とありあはし棟梁の  
 るまは君何れとお宣ふとも更にお許容ありあはし既にお毘陀勧修にお父と殺す

王万八千人とて是の國家を奪らん為弑逆の罪を犯せし況やとての相  
 教とありあはしは唯速にお失ひ去らせ後の作者孝書とて才においふ事と  
 故事など訂て去らるる義朝妻の然念とていふに尤も右にお汝にお仕す宜を  
 計らとありらるるさるる入道殿とよれ程にお賺しあらんとて義朝則ち父の  
 由らるるお舎を去らせり人にお更にお塞がらるる公若くは東にお静るる菴室  
 と據えてお彼處へ渡らせりいづれ後世にお勸めらるる如何におもはるる命にお  
 と欺きとて入道世にお格においふに現におるる事とてお初にお心にお堪へ  
 らの恩にお忘まらるる流しにお飲ひ多し義朝心中においとお渉情ありとてお賺  
 一課せし出るるお政清妻と居るる法房を母とて波多所にお義通と俱にお  
 條西にお養ふにお死にお失ひなす當下にお養入るる初にお欺きとてお晩にお  
 六人のみ共にお不在にお尤もお多し矢種に限るる射すに渡渡く自害せし武門にお



義朝  
 父入道

君  
 五  
 堂  
 崩  
 抄



乎誅而天下將忍而誅焉世以惡淨海之甚而至義朝則不之  
 罪及曰忠致源氏世臣弒其主義朝故建賴朝復仇無遺族名  
 義之不明也其如此夫可以為長大息也夫忠致高望王之後  
 世任王官世司土邑大江匡房歷舉一條帝得以平致賴  
 列源賴光之上賴光者義朝之先而忠致乃致賴之曾也世系  
 位祿未必在義朝之下余聞其為邦誅賊未聞為下弒上也若  
 謂之忍殺投我之窮鳥則似也而義朝乃食人之虎執之者無  
 禁而阱之者有功今將不惡噬久而惡為之阱不亦悖乎源賴朝  
 之後稱呼名號已亂而裨官小說從而錄之是非之清真好惡之  
 相反豈特此也哉と見えり實不確論あり但長因莊日忠致が家系之  
 小授めり主と弒する者ありて看官宜多く分別せよ

為義八男  
 為朝 鐮西八郎

為賴 島冠者  
 為家 大島次郎

大島 小次郎  
 俱死

女  
 智長 公重 重長 兼

源為朝

八皇七十九代 六條帝嘉應二年卒  
 今嘉永六丑迄 六百八十四年成

源為朝者為義八男膂力勝人善射

善戰曾在鎮西押領九州應懲歸洛保元

之亂守崇德上皇之宮射殺敵兵多矣眾

無不辟易既而上皇南狩為朝謫伊豆大

島島人並邊夷皆畏伏嘉應年中官兵

來攻之為朝一箭射破蒙衝而遂自殺

源為朝の結

為朝幼年より武勇逞き。父見お情るに。父為義に怒り。系肝の内お程  
 めあふ。如何なる。出末さんと十三歳の。後西へ逐遠下。為朝更  
 小原にせ。豊後小原に肥後の玉平忠高が壻と成て。威を近小原揮ひ向  
 ふ。撃びし。の。大の戦争二十餘度。九匹の法士。と畏れ悉く  
 屬後。周。鎮西八郎と秘に朝廷。と。變り。法郡。小令。と。是を代。む  
 共。も。猶勝。を。秘。に。お。於。て。父。為。義。が。官。爵。を。統。罪。甘。ん。と。受。え。し  
 ぐ。為。朝。大。小。と。是。を。畏。且。吾。故。と。り。父。を。隔。る。不。孝。是。より。大。なる。あり。此。身。い。ち  
 小。も。あ。ら。は。た。る。て。ん。父。お。や。の。換。ら。ん。と。も。の。者。十。人。中。を。お。て。目。あ。ら。は。系。肝。へ  
 参。焉。罪。を。俟。て。恨。と。居。ま。り。朝廷。と。と。波。し。百。鬼。神。の。お。く。ひ。り。て。難。を。親  
 へ。捕。考。る。り。ん。と。と。の。元。健。る。心。を。恨。と。罪。を。赦。し。ひ。ん。と。ま。より。父。が。許。小

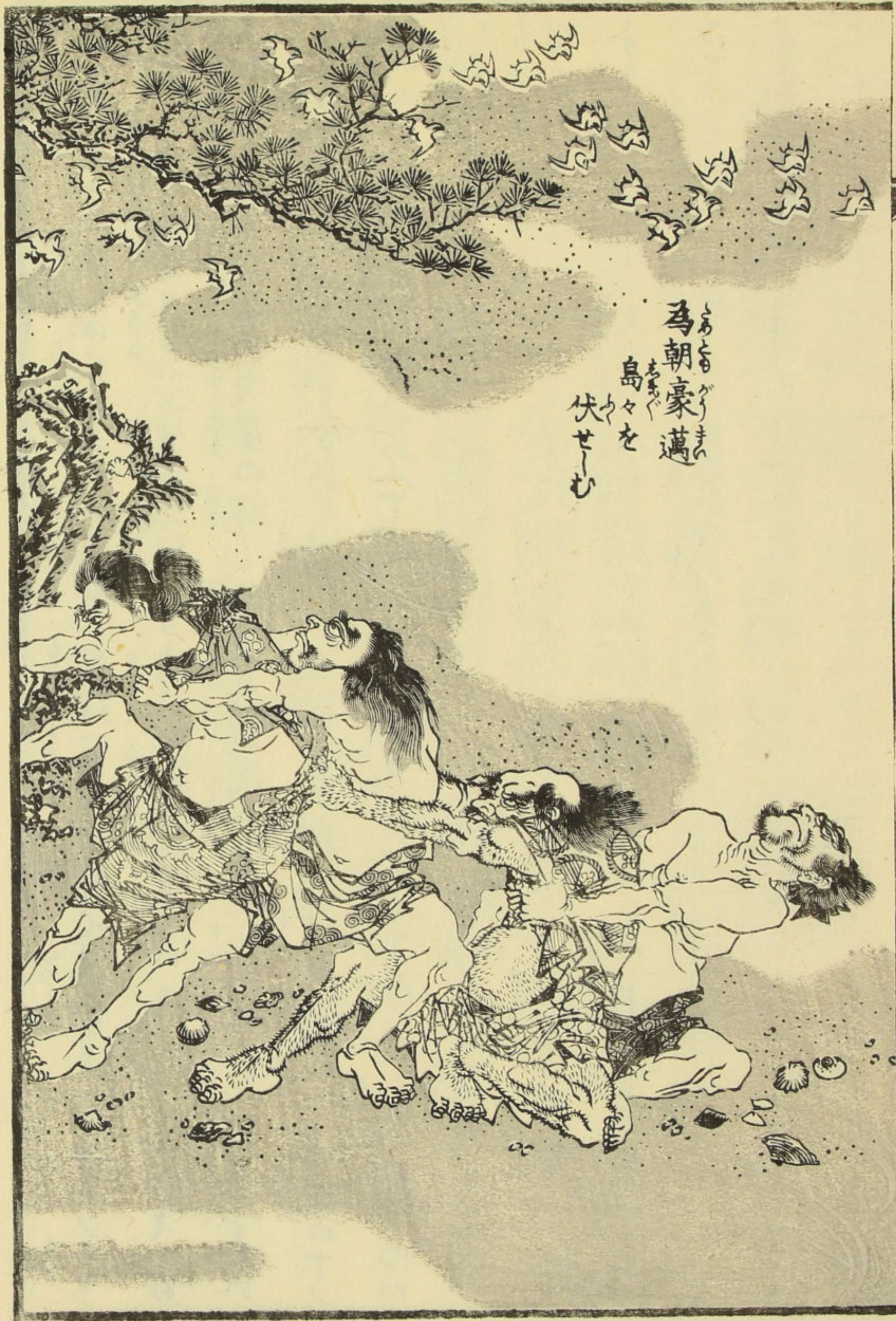
と。居。ま。り。ある。保。元。の。礼。出。ま。て。父。為。義。の。新。院。へ。百。を。お。秘。て。為。朝。も。俱。小。從。ひ。多。り  
 ける。が。上。皇。豫。て。其。名。を。變。り。ひ。り。る。者。と。敵。覽。ある。と。の。年。既。小。十九。才。の  
 丈。七。尺。有。餘。み。て。眼。の。明星。の。輝。く。や。鬼。債。左。右。小。逆。立。て。天。晴。一。騎。數。千。と。の  
 是。等。と。行。て。あ。り。ん。と。い。と。憑。考。ぞ。思。ひ。新。に。左。府。頼。長。と。て。軍。の。中。り  
 と。同。の。小。為。朝。信。と。對。て。の。み。す。兵。の。神。速。を。貴。と。先。を。め。り。人。を。制。し。後。を。め。り  
 人。小。制。せ。ら。る。今。夜。急。小。北。關。小。清。を。祝。融。氏。と。て。兵。威。を。わけ。の。臺。壘。と。迎。え。て  
 掌。小。在。と。揮。り。処。を。お。け。ま。し。頼。長。は。首。を。うち。振。り。開。け。汝。等。が。同。士。軍。あ。ら。る  
 り。の。あ。ら。は。た。と。一。天。の。君。の。争。ひ。か。る。骨。の。と。や。の。る。ん。と。今。兵。勢。多。う。兵。軍。兵。の。お  
 係。と。俟。て。我。の。ん。お。如。く。成。と。お。ひ。の。外。の。府。が。何。小。為。朝。形。で。改。め。て。長。が。兄。義。朝。を  
 係。り。の。既。小。彼。処。の。陣。小。在。と。と。の。礼。早。き。大。ね。お。て。争。此。方。へ。援。兵。の。勢。を。俟。て。此。三  
 彼。方。より。考。ら。さ。る。必。定。味。方。の。敗。し。ん。と。父。と。頼。長。背。を。と。の。礼。彈。を。外。小。出。し



百將傳

〇三十一

洋玉堂藏



為朝豪邁  
島々を  
伏せしむ

百將傳

君王堂藏



響風美佐と備へりし由。争撃攫の事とあらんや。鼠と捕ハ猶ふあふ。此軍果敢  
 果敢しと。と。咳きく。居りけり。黎明及びて源義朝平清盛兵庫改頼政を他  
 の諸將軍列と整へ向河の宮と整ふ。下清盛の家士伊藤六侍五の兄弟。南門  
 小向て如此と。名宗処と為朝の劫り。吳んと。此例の矢と。ち。番ひ。紋て切て放  
 て。伊藤六が胸板と射ね。後ふ。伊藤吾が。後。袖と。後。神箭更。射。此  
 以。ある。武。の。曹。の。左。手。の。腕。右。手。の。四。寸。伸。在。一。丈。未。と。言。て。並。色。不。振。え  
 殊。不。強。弓。の。精。兵。あ。る。と。い。ふ。矢。面。ふ。ま。り。の。甲。胃。も。未。塵。不。多。伊。藤。五。郎。の。柳。一。さ。ふ。か。の  
 矢。と。持。て。立。降。り。ま。る。清。盛。小。と。と。射。せ。て。此。と。と。伊。藤。六。が。最。期。の。件。と。信。信  
 お。ど。清。盛。の。矢。と。楯。を。つ。ら。小。簀。の。長。く。と。節。細。や。う。う。三。年。竹。と。も。言。え。し。れ。不。敵。巨。壁  
 の。如。く。と。い。は。れ。し。う。り。ま。る。等。と。と。と。古。と。株。斗。全。の。指。子。を。盛。人。の。忍。傷。成。り。て。大  
 の。不。励。し。住。意。為。朝。何。計。の。強。ろ。と。り。て。射。る。を。も。支。つ。怖。さ。不。後。へ。と。引。べ。と。我。一。人。と。ら。向。ん

と。響。と。引。か。下。地。向。え。と。せ。し。ま。り。清。盛。の。之。浮。雲。あり。吾。も。多。し。の。門。へ。む。え  
 べ。と。の。人。作。命。あり。他。向。つ。も。柄。と。取。り。せ。者。共。未。也。と。是。重。盛。と。注。め。よ。と  
 り。不。ど。不。法。士。重。盛。が。響。小。と。の。矢。狂。つ。ら。小。是。非。も。あ。り。と。と。退。き。を。信。不  
 侍。賢。門。へ。向。い。し。り。義。朝。の。下。侍。え。也。中。為。朝。小。冠。者。あ。り。小。さ。の。こ。忠。ろ  
 と。あ。る。と。と。と。藤。田。政。清。と。先。小。と。の。門。へ。と。對。以。政。清。大。小。声。を。発。し。と。是。不。固。め  
 あり。の。後。西。の。出。曹。向。と。也。在。下。ハ。藤。田。政。清。一。矢。進。ら。せ。し。と。い。う。け。ら。と。為。朝。怒  
 て。政。清。の。累。代。の。家。人。あ。り。也。鳥。餅。あ。り。考。ぞ。頓。退。け。下。野。殿。の。向。ひ。の。返。辞。と。と  
 あり。と。と。と。と。政。清。日。未。を。相。傳。の。主。あり。と。今。の。八。逆。の。出。流。あり。此。矢。後。と。い。ふ  
 へ。と。切。て。放。て。為。朝。の。身。と。沉。み。て。懸。ろ。と。右。の。頬。と。射。射。て。許。附。の。板。小。射。射。り。為  
 朝。怒。里。腹。小。赤。心。遠。奴。生。捕。て。辛。さ。月。人。せ。ん。考。共。續。け。と。在。出。多。手。捕。の。兵。次。討。手。の  
 城。八。所。磔。の。紀。平。次。大。夫。と。是。劣。ら。と。逆。意。を。極。勢。者。と。け。し。と。政。清。の。於。鞭。打。之。河

東へ東へ道とあり。何方生れどもおのまじきと。跡を獲てけり。其の爲に引返り。行そり門を固めらる。義朝後園が逃帰す。後を追て日暮上り。怒るまじきこと。思へ。云来我一當あてり。んと自身馬をすめり。史小控方の五弟八郎冠者爲朝あるは。我ハ勅宣の内使殊あへ見小立向ひり。雲の眞加小そん早小退くべし。高ら小噂のこづ。爲朝受て在下の院宣小思く。小居まら。院宣と勅宣と。思を申しあへ。見小向つて。雲の眞加小そんと宣へ。爲父小向ひり。と。雲の眞加小居まら。いづま小ゆいぞ。と言下小の理と推まその。義朝返以辞ま。か。喋りて居られけり。雲下夜のまじき。明る小よ。て。爲朝の在野由定。り。多る。其間小居まら。屋の竟の敷あり。と。倒のろ矢と把走せ。が。心裡小あり。父も兄も。さ。別る。武門の常小あり。勝負小用く相救ふ。と。おのれも。あ。見小。一矢小射。前小合。思慮るに所爲小解り。さ。ま。我り勢で。入する。あ。如。び。と。於て上。爲の大。福。

と。抜りて。うち。音ひ響。校。下。切て放つ。滴ハ虚空と鳴。浪。り。爲朝。が。着。り。り。の。星。と。射。削。つ。て。後。る。空。莊。嚴。院。の。門。の。扉。五。六。寸。る。厚。さ。の。板。と。鉄。拍。衝。の。篋。中。に。そ。ぞ。ま。り。り。義。朝。の。内。内。梵。と。射。ら。ま。り。と。眩。暈。を。う。り。小。言。え。い。探。り。て。入。る。小。痕。も。あ。け。ま。い。吾。も。あ。安。塔。の。お。せ。と。も。觀。着。若。ひ。と。そ。身。の。幸。も。と。損。ら。と。去。り。に。若。い。と。空。莊。嚴。院。の。内。藤。小。入。り。武。義。相。模。の。軍。兵。等。と。指。揮。し。進。め。戦。ひ。大。厦。の。お。小。倒。ま。んと。す。る。こ。は。一。本。の。土。克。夜。の。こ。は。爲。朝。が。も。別。あ。ま。ま。も。脱。小。火。と。掛。ら。と。ま。い。は。是。と。防。ぐ。ん。射。射。多。く。憑。切。り。軍。兵。も。散。ら。り。行。へ。上。皇。も。頼。長。も。さ。と。出。こ。せ。の。ひ。り。爲。朝。今。の。見。ま。ま。と。父。爲。義。と。始。り。同。胞。共。小。七。勝。小。多。り。何。方。と。も。あ。く。落。ち。ま。と。獻。山。東。坂。なる。三。川。尻。小。身。と。傍。り。一。夜。目。限。と。居。の。連。由。ら。小。勝。を。集。め。再。び。戦。へ。ん。と。恨。ふ。か。ら。は。是。より。東。へ。五。城。に。殺。す。以。来。奮。功。の。武。士。と。作。ら。ひ。ぬ。何。小。も。せ。と。思。願。譜。代。の。郎。黨。と。も。密。小。拍。子。と。す。勝。人。東。坂。と。互。

出が為義暴小病小罹中馬小之糸得ざる。冷方ありて怪一氣多。自亭小入て  
 看病あせが。僅あかき由。即後等が。糧支心小任せ。是より身の喉とすじ。五日  
 過て為義ハ快くなり。多と。安大津栗田に。その外小軍兵先て遁走。出ん難ければ。  
 為義子息達小うち。對ひ父兄身。鶯鳥の栖とあり。隠し居ると。竟あ探し出さ  
 走。涉増さ目と見え。入る小遠。回義初ハ莫大。多勲功小定めて。重く賞せらとん。  
 吾もつ。性之渠と時。多勲功の賞小換て。由。先と。ああり。我り。依ると。得。これ  
 多。女等と。依けるん。多。小世と。悉ひ。吾成。由。と。窺ふ。と。安。為。初。進。と。出。それ  
 義理小似。多。と。下野殿の心中と。在。下。向。公。得。は。況。清。益。以下。虎。狼。の。傍。等。り  
 吾父と。依。く。べき。任意。軍。兵。退。散。多。と。由。兄。才。六。誘。あり。と。之。五。百。誘。二。百。誘。れ。  
 腰。拔。む。り。が。固。め。り。と。由。踏。破。り。て。通。ら。ん。と。い。し。う。安。く。り。之。巴。圖。の。東。へ。赴。き。計。す。小。信。王  
 ある。と。之。為。初。信。先。て。仕。り。治。次。と。安。く。就。せ。ま。と。え。ん。去。来。と。せ。り。と。勇。と。多。と。為。義。初

兄の頼賢汝一言勇まらる。と。既小憑ま。と。参ら。と。新院由渠。多。為。小。出。閉。せ。ら  
 是。あ。ん。と。安。バ。何。と。恃。と。小。并。兵。と。揚。ん。今。の。人。や。小。計。ら。ん。と。心。決。と。り。ひ。と。多。今。の  
 為。初。由。冷。方。あり。尤。り。右。も。と。田。卷。の。父。子。同。胞。初。て。七。人。多。の。小。五。多。と。大。系。并。せ。鞍。を  
 の。奥。の。外。折。之。隈。と。多。為。初。の。史。より。之。後。西。へ。赴。き。と。准。備。せ。り。と。多。政。清。小。討  
 ら。ま。り。と。頗。の。傷。痕。を。ら。び。痛。と。又。泣。け。と。多。温。泉。小。入。と。密。小。出。て。沐。浴。多。小。令  
 へ。こ。ま。て。て。殊。の。人。と。目。ひ。は。は。衣。と。と。斗。り。怖。恐。と。ら。は。是。道。の。小。あり。小。司。依。後。兵  
 衛。尉。重。貞。是。と。定。小。為。初。と。人。を。入。す。小。疑。ひ。あり。と。之。と。屈。竟。の。兵。と。擇。び。政  
 云。と。力。と。并。等。と。せ。び。か。の。活。室。の。四。面。と。圍。と。透。と。入。令。せ。隙。や。入。と。と。安。得。と。り。と。為。初。ハ  
 傍。未。と。者。と。捕。へ。抱。伏。せ。人。謀。と。て。防。ぎ。と。と。の。社。より。所。旁。小。罹。中。て。い。ま。果。敢  
 果。敢。資。勢。力。義。次。才。小。格。力。弱。と。と。把。是。把。折。重。多。り。と。難。多。擲。め。捕。ら。れ  
 けり。と。と。系。所。へ。身。り。て。仕。り。と。の。為。初。が。矢。先。小。加。り。と。命。と。失。ふ。り。の。多。く。死。罪。勿。論。の

賊をど。其場と道と今までも。存念をせ。天運あり。加納り矢ふ。於ての前代は。是と  
 波は。未代。是のあり。安双の勇士あり。の。安下。小教。有。遠。懐。多。向。後。志。改。め。る。  
 越。る。死。朝。敵。の。護。守。を。成。る。人。未。あ。る。ま。だ。流。罪。を。成。る。ま。だ。國。自。敵。の。作。小。う。  
 伊。豆。の。大。流。へ。ぞ。流。さ。る。然。る。信。西。計。ら。ひ。ぬ。以。来。流。り。と。穿。ぬ。ぬ。為。り。て。義。朝。  
 小。命。ト。為。朝。が。左。右。の。腕。の。筋。を。斬。り。四。方。の。軍。く。健。ぬ。敵。を。く。纏。る。粟。小。宗。世。と。  
 早。の。二。十。人。堅。固。の。武。士。五。十。人。あり。伊。豆。の。下。下。さ。る。の。道。ま。だ。為。朝。の。堅。固。の。武。  
 士。と。粟。早。の。大。者。揚。て。置。る。一。天。の。君。も。持。牌。し。今。の。多。勢。を。屬。ら。せ。て。伊。豆。の。  
 兵。へ。送。ら。る。の。身。小。う。て。大。業。あり。と。可。と。う。ち。笑。ひ。ま。さ。秋。息。し。て。弟。宗。の。君。の。風。後。  
 大。多。う。ま。為。朝。不。ぎ。の。別。の。者。と。祈。押。第。三。と。怪。し。る。ま。の。牢。裏。ハ。堅。く。も。破。ら。  
 へ。いと。易。し。と。是。も。よ。と。身。を。振。ぬ。め。り。と。當。り。初。く。ま。振。ぬ。之。頃。と。衝。ハ。粟。早。快。ハ。倒。  
 せ。り。と。小。於。て。護。送。の。武。士。も。為。朝。不。逆。後。を。果。が。機。嫌。と。損。な。ハ。伊。豆。の。兵。

け。と。則。守。護。人。へ。渡。し。る。守。護。人。為。朝。と。船。小。宗。せ。大。島。へ。ぞ。流。し。る。為。朝。大。島。へ。り。  
 くと。腕。の。麻。も。麻。と。ば。ら。の。少。弱。く。あ。ま。ど。日。矢。未。ハ。結。句。穿。き。と。空。と。更。小。宗。の。乳。  
 色。の。の。島。三。郎。大。文。敏。定。が。婿。と。あり。男。子。二。人。女。子。一。人。と。儲。り。前。の。系。ま。う。り。  
 五。島。の。の。小。及。と。五。島。八。丈。島。み。つ。け。の。島。澳。の。島。一。宿。小。後。へ。願。ひ。お。小。宗。  
 萬。九。年。小。至。中。澳。小。融。一。飛。て。又。て。彼。方。小。崎。の。あ。う。ん。と。祭。し。船。小。宗。の。潜。り。果。  
 志。一。つ。の。小。島。あり。その。人。物。人。と。も。着。火。鬼。と。も。名。ぬ。解。者。と。名。の。丈。一。丈。修。り。あ。り。普。  
 通。の。者。の。彼。処。へ。四。け。取。略。し。ま。て。帰。ら。ん。と。ぞ。然。ま。ど。日。為。朝。ハ。更。小。宗。を。宥。り。た。く。  
 其。処。小。生。る。大。本。と。根。を。し。做。を。大。石。小。宗。て。その。根。の。土。と。振。ひ。流。し。汝。等。我。小。後。  
 ぐ。の。の。大。本。を。未。嘗。か。る。と。その。風。勢。と。示。し。け。る。島。人。也。と。一。句。日。出。言。  
 語。ハ。元。より。分。か。け。ま。さ。地。上。小。拜。伏。る。人。と。小。於。て。為。朝。ハ。の。島。の。由。来。と。問。小。  
 昔。ハ。鬼。の。棲。ま。り。今。其。の。跡。あり。と。い。ふ。後。ハ。言。語。を。通。ひ。と。ぞ。新。て。其。島。の。年。末。を。

定め年々船と違へてその通達をみつけ。かまは其処へ往らる印小かの鬼童と伴ひ  
 来て。彼程の程おわたりしと。元来その大島ハ賜する願ひありしと。其責税と致さ  
 る。伊豆守備人狩野分前光弘の外小懐中。為朝島小在り諸島と押領し。剽へ鬼  
 島へ渡り。鬼童と従へて。誘叛する所より。所へは。則東八箇島の兵小為朝遊討  
 の宣言下り。さし小周く。茂光大將軍と。五百勝勝兵船六十餘艘小乗入大島へ  
 と押参る。為朝是て。笑て。行小まら出渡の方と。いひ。させ。船艦と並べ。清未る。為朝  
 思惟せし。吾保元の味と免る。是十勝年島主と。あつて。さ。あ。ひ。出。あ。る。小。仙。り。何。方  
 へ。性。と。も。適。是。難。ん。切。索。く。死。ん。小。若。し。さ。い。最。期。の。一。矢。と。射。ん。と。倒。の。大。矢。と。う。ち。番  
 ひ。切。て。放。て。ば。美。先。る。船。の。朋。と。契。さ。さ。り。る。間。小。潮。充。満。す。と。い。ふ。軍。兵。と。小。溺。と。て。  
 浮。ぬ。所。も。漂。ひ。り。為。朝。史。より。敏。火。と。り。島。冠。者。と。刺。殺。し。自。害。多。と。失。れ。け。り。  
 一説小流球へ渡り。舜天王のそのことなり。  
 于時安元二年三月六日と。い。ふ。一説小嘉應  
 二年と。い。ふ。い。ふ。一説。是。は。な。ら。ず。い。ふ。は。り。

義朝 左馬頭

義平 悪源太

難波六郎純俊  
 大刀取くして六條  
 河原小見せ斬る  
 當下義平懐怒  
 と發し後果して  
 その言のや雷と  
 ありて後俊と聲  
 との盛衰記あり  
 布引の流し  
 評林あり抄及昆  
 陽野と伝へる  
 牙伝が

源義平

年歴父義朝公一

源義平者十五歳擊殺義賢于大  
 藏谷十九歳連破重盛于待賢門  
 二十歳為清盛被殺俗稱惡源太  
 義平十五歳の時。叔父の帯刀先生義賢と攻て。武藏小大藏谷にて。誅  
 を。故。小。佐。小。悪。源。太。と。稱。せ。り。義。賢。ハ。本。曾。義。仲。の。父。あり。義。仲。ハ。の。ゆ  
 強。保。小。河。中。因。中。山。権。頭。兼。遠。救。ひ。と。り。本。曾。小。具。り。て。養。育。せ。り。今  
 井。四。郎。兼。平。が。父。之。已。御。前。由。兼。遠。が。女。あり

一日守貞一ノ古史三ノ五

○登 年三ノ二ノ五ノ五

源義平の語

平治の礼不義平先降あり。兵庫頭頼政三百餘騎を率し。六條河原に相ひ  
と。義平信とて。渠の勝負を量す。吾負は渠共せんとするありん。一  
路一騎うさんと五十餘騎あてせ向ひ。是処陣し。兵庫頭。頼政も  
平家不従ひ。力のうす。相家不麻つ。力の足下ふていせ。り。ふといふに  
性古より。平家、源氏不従へども。源氏より平家不従がれば。殊も足下へ  
頼光の嫡流あり。を以て奇怪と。大者不器と。頼政は。汝も放ば。這へ不  
測ある悪言も。吾は。命不困て。と。向ふ。放て。平家不器する。足下  
累代の名家と。興し。源氏の名。麻付る者と。是より。信。病未練の不  
信頼不供へ。朝敵と。その麻。為世。細あり。といひ。信。義平の。詞。益  
あり。乞。莫。散。徒。搏。不。せん。と。驀。地。不。突。て。か。頼。政。が。郎。黨。競。と。拵。め。雲。と。並。べ。ん

追つた。戦ふ。十。併。合。さ。し。も。義。平。猛。勢。あ。り。頼。政。方。四。途。洛。ふ。る。る。の。是  
と。兼。て。一。回。不。礼。と。引。け。ま。へ。嗟。心。地。よ。う。ち。笑。ひ。ま。う。ろ。六。波。羅。一。寄。り。ろ。  
是。より。さ。し。平。重。盛。の。五。百。餘。騎。を。引。率。し。侍。賢。門。へ。向。ひ。その。姓。名。を。名。案。ら  
ま。り。不。信。頼。ら。不。在。あ。り。孩。と。や。引。逃。さ。戦。慄。て。あ。ま。り。と。義。朝。發。か。け。急  
深。太。は。な。ら。る。侍。賢。門。に。被。ら。ま。つ。ぞ。防。げ。く。と。吹。よ。り。唯。と。回。答。て。義。平。の。勢  
僅。か。十。六。騎。重。盛。が。五。百。餘。騎。を。蒐。合。て。挑。と。合。し。あ。く。一。勢。當。子。の。兵。多。し。平  
家の。勢。捲。々。と。敗。を。以。得。さ。り。賢。門。適。す。と。義。平。威。勢。熾。り。重。盛。を。逐  
と。急。之。平。家の。忠。臣。共。三。尤。弟。の。景。安。と。新。右。左。衛。門。家。益。が。か。り。隔。て。鎌。田。に。戦。ひ  
或。ハ。義。平。と。支。え。一。回。不。重。盛。景。安。が。馬。を。牽。て。の。折。で。辛。う。と。七。通。ま。り。備。六。の  
二人。あり。廿。重。盛。と。あ。り。討。た。る。ん。危。ふ。ろ。ろ。共。あり。是。と。惡。源。太。義。平。が。十。六。騎  
の高。名。と。ん。依。る。人。の。誰。と。七。源。田。兵。清。佐。と。本。源。三。波。多。野。次。郎。頭。後。刑。部。長。井。安。多。別



百将傳一古卷之五

〇廿七

羊二二二反



待賢門下  
義平十六騎  
重盛の五百  
餘騎を  
挫く

〇平

百将傳一古卷之五

君王室藤本

當岡部六弥を備保小平六。然谷次郎平山武者所金多十郎足立右馬允上総介八郎。  
 関次郎兵相小八郎大夫等あり。其時ともらの軍。元より天理小並なるなり。猛卒あり。  
 ともらの志を得んと欲く。平治元年十二月廿七日。己の刻より。我ひ始まり。西の刻に  
 及びて。活居せり。義平の父と俱小。義平を落らざる。父を引く。義平  
 越前の玉足羽小。忍びてあり。乃が。月海お於て。父を初討せぬと。叱え。乃が。今  
 更小。討計あり。義平の故ある。清盛と小。恨まん。と。密小。東河へ。隠し。登。志月六  
 郎景住の妻内平家小。在との。元。元。重代の家人あり。是。是。憑。之。奴。あり。日。毎。六。波  
 罪を窺へ。更小。近。く。と。悔。ひ。部。七。難。波。小。怪。め。志。月。が。忠。也。空。く。る。終。小。前。我  
 刃ら。下。下。義。平。と。道。と。二人。内。候。ひ。が。関。明。神。の。世。方。小。於。て。難。波。後。生  
 捕ら。見。小。誅。せ。し。事。あり。其。勢。の。多。く。は。勇。小。於。る。實。小。技。業。小。冠。と。り。あり。

日本百將傳一夕話卷之五 大畢



